

エエトコ タント

岐阜市 2023

Live

Visit

Taste

The theme for Etokotanto Gifu City 2023 is drawing/painting. This year's version was created using words invoking creativity and positivity, such as drawing pictures, painting future dreams, etc. Gifu City has a rich culture and history, many functions as a city, etc. that make it an attractive place for many. What kind of dreams are those that live, work, or study here painting for the future? Read our real-life examples of people active in our city to see for yourself!

GIFU CITY

答えは岐阜にある。



CONTENTS

- P02 答えは岐阜にある。
- P04 Interview
- P08 STYLING in Gifu City
- P12 対談
- P16 Live
- P26 Next Generation Leaders
- P28 Visit / Taste
- P36 Mt.Kinka Climbing
- P38 こどもファーストのまち 岐阜市
- P40 今、住みたいまち 岐阜市
- P41 魅力あふれるまち 岐阜市
- P42 岐阜市イベントカレンダー



答えは岐阜にある。

The theme for Etokotan Gifu City 2023 is drawing/painting. This year's version was created using words invoking creativity and positivity, such as drawing pictures, painting future dreams, etc. Gifu City has a rich culture and history, many functions as a city, etc. that make it an attractive place for many. What kind of dreams are those that live, work, or study here painting for the future? Read our real-life examples of people active in our city to see for yourself!

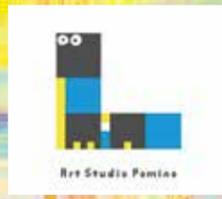
GIFU CITY

答えは岐阜にある。

『エコタクト岐阜市2023』のテーマは、「描く」です。
 「絵画を描く」「将来の夢を描く」など、創造的で前向きなイメージの言葉を、
 今の岐阜市に重ねて制作しました。
 岐阜市は、文化や歴史、都市としての機能などさまざまな魅力が詰まったまちです。
 ここで暮らし、働き、学ぶ人たちが、どんな未来を描いているのでしょうか。
 岐阜市で活躍する人たちの姿をレポートします。



Concept



このページの絵は、岐阜市美殿町の共同アトリエ「Art Studio Pomino(アートスタジオ ポミノ)」で活動する5名の画家が共同制作したものです。各自が好きなタイミングで自由に加筆する方法で、約1か月かけて長良川の風景を描きました。



よく行きます。事前に何も言わず、ふらっと遊びに行くんです。チケットを買って地元の子たちがやっているライブをのぞいたりします。店のオーナーなど先輩の方たちは、私が今こうして活動できていることをすごく喜んでくれています。

—LISAさんにとって思い出深い場所なんですね。

そうですね。ライブハウスで音楽を教えてもらうなど、学校とは違った学びの場でした。また、ファッションについても、新しいカルチャーを知るためにショップに行き、そこで友だちや仲間ができるという経験をしました。今も岐阜にそういう場所があることが、すごくありがたいと思います。

—地元にいる時はずっと、「いつか東京に行く」と思っていましたか？

いいえ、思っていませんでした。東京ってドラマとかに出てくる遠い場所だと思っていて、自分にとって夢のような話でした。でも21歳の時にバンドが解散することになって、自分の道を決めなくてはいけない時に「どうしようかな」と考えて、勝負をしに東京へ出ようと初めて思いました。

—強い意志を持って東京に出てこられたんですね。

そうですね。私の場合は特に、家出して東京に出てきたので、「なかなか(簡単には)帰れないぞ」と思っていました。何か一つ成し遂げないと、岐阜で応援してきてくれた先輩や仲間に向き合えないという気持ちでした。自分がデビューした時に最初に決めた目標が日本武道館だったので、そこに行ってからじゃないと岐阜には帰れないと思いました。

—その目標を叶えて日本武道館のステージに立たれたのはいつですか？

「エトコタント岐阜市2023」の巻頭ページで、アーティストLiSAさんへのインタビューが実現しました！岐阜市の高校のご出身だというLiSAさんは、高校卒業後も市内のライブハウスなどで音楽活動に力を注いだそうです。その頃の経験や人のつながりが、ご自身のベースになっていると語っていただきました。

日本武道館に行ってからじゃないと岐阜に帰れない

—LiSAさんは、岐阜市にはどんな思い出がありますか？

子どもの頃、母にデパートに連れていってもらったのがうれしかった思い出があります。あと、金華山の近くのカフェで毎週ジャズなどのライブがあって、母に連れられてよく行っていました。

—高校は岐阜市内に通われていたと聞きました。その頃よく行かれた場所がありますか？

高校が岐阜駅に近かったので、駅の方まで出て音楽活動をしていました。駅の隣にあるハートフルスクエアGのスタジオを借りてリハーサルやライブをしたり、その裏の広場でストリートライブをしたりしていました。

また、当時は音楽とファッションがすごく近かった時代で、お洋服屋さんが企画するライブやイベントもありました。そういうお店や岐阜のライブハウスには、今もよく行きます。実は先日も岐阜に帰っていたんですよ。

—何というお店に行かれるんですか？

お洋服屋さんは、玉宮町にある「Captain Street(キャプテンストリート)」、ライブハウスは柳ヶ瀬にある「ANTS(アンツ)」に

自分にとって大事なものは、岐阜で育てられたと思っています。

LiSA × GIFU CITY



—岐阜の「人」については、どんなことを感じられますか？

職人肌の人が多くて素晴らしいものを作っているし、すごくいいものがたくさんあります。謙遜する人が多いですが、もっと威張ってもいいくらいだと思います(笑)。こだわりを持っているけど、自分のこだわりを人には押し付けない。そういう人が多い気がします。

—LiSAさんも実はそういうタイプだったりしますか？

そういうタイプですね。岐阜の皆さんと私が同じだとしたら、「自分から押し付けてまで分かってもらおうとはしないけど、分かってくれたらすごくうれしいな」という気持ちだと思います。

—LiSAさんにとって岐阜はどんな場所ですか？

自分にとって大事なものは、岐阜で育てられたと思っています。地元の関市でミュージカル教室に行って歌の練習をしたことや、岐阜市のライブハウスでライブ力を培ったことなど、岐阜で学んだことがすごく今の自分に生きています。

—「エトコタント2023」は、「描く」というテーマを設定しています。夢を描いている岐阜の若者に、メッセージをお願いします。

岐阜にもいろんなことを経験したり勉強したりできる環境があるので、それを誇りに思ってほしいと思います。自分が培ってきたことに自信を持ってほしいし、その先に(新しいことに)勝負したくなったら、夢を叶えに一回勝負しに行ってもいいんじゃないかと思います。

—今後、岐阜市や岐阜の人に期待することは何ですか？

先ほどお話ししたように、私の友だちが岐阜でたくさんお店をやっていたりします。そうして地元で「帰れる場所」を作ってくれているのは、地元から出てしまった私たちからするとすごくありがたいことです。

岐阜で何かをやっている人たちは、地元で恩返しをしたくてがんばっているのではないかと思います。皆さんが恩返しをしている場所があり、私もそこに会いに行ける。みんなが居場所を作ってくれている感じがするので、そういう場所をぜひ守ってほしいと思います。



■ LiSAさん

岐阜県関市出身。数々の人気アニメ主題歌を担当し、国内外でヒットを記録。2020年にリリースした「炎」は「第62回輝く！レコード大賞」にて、「日本レコード大賞」を受賞。圧倒的な熱量を持つパフォーマンスと歌唱力、ポジティブなメッセージを軸としたライブは瞬時に人気を集め、アンソニーンにとどまらず、数多くのロックフェスでも活躍するライブアーティストとして、その存在感を示している。2022年11月16日に自身6枚目となるフルアルバム「LANDER」をリリース。



2014年です。ただ、初めての武道館は私自身すごく悔しい思いをしたんです。で、その翌年にリベンジで2daysをやったのですが、その武道館の時は……何だろう。「自分の夢が叶った!」というより「安心した」という感じだったと思います。「ちゃんとやり遂げられた」「応援してくれた皆さんにちゃんと顔向けできた。良かった」という気持ちでしたね。

派手なものはないけど、岐阜には何でもある

—普段お仕事をやる中で、何が一番喜びを感じますか？

やっぱり、目の前の人喜んでくれることです。ライブもそうですし他の活動もそうですが、自分を応援してくれている人たちが喜んでくれることが、すごく私のモチベーションになっています。小さなライブハウスでお客さんが少なかった時も、場所が東京や海外に変わった後も、本当に何も変わらないです。

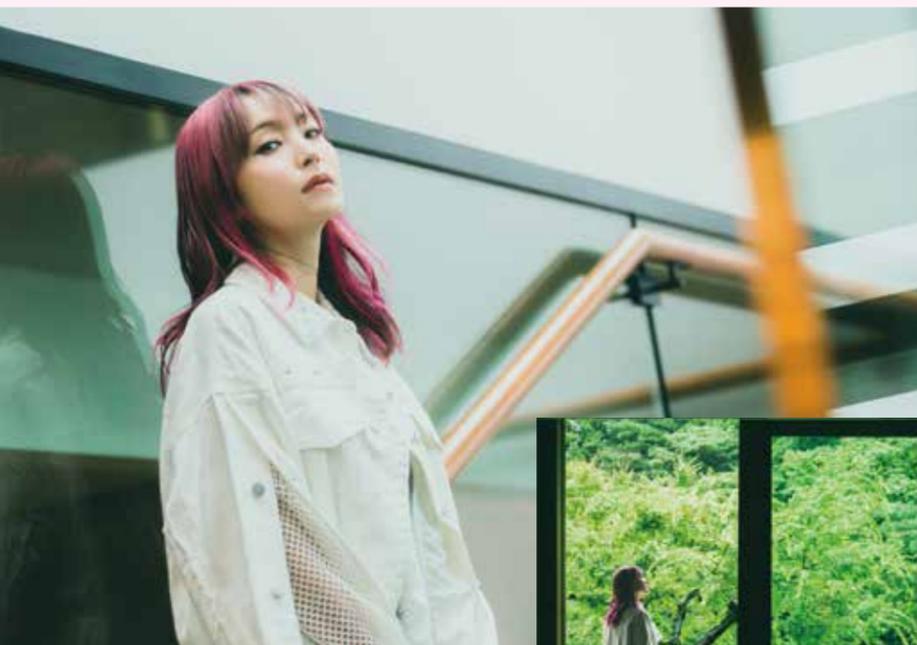
—お仕事をやる上で特に意識しているのはどんなことですか？

少し大きなことを言うなら、「進化し続けること」です。勉強し続けることや、探し続けること。時代がどんどん変わっていくので自分もちゃんと進化し、新しい何かを感じ続けたいと思います。やっぱり10年続けていると、「超えなければいけないもの」がどんどん減っていくとか。たくさんの夢を叶えさせてもらったので、「次どこに行こう?」という行き先がけっこう難しく。だけど、目の前の人に喜んでもらうためには、自分がちゃんと進化してクオリティの高いものを見せる必要があります。進化し続けることや、そういう自分にワクワクし続けることをしていきたいと思っています。

—改めて岐阜市について質問します。岐阜市はどんな魅力のあるまちだと思われますか？

特に贅沢なものや派手なものがあるわけではないですが、岐阜には何でもあると思います。そのなかで私が一つ誇りたいのは、水がきれいなこと。水がきれいなところは水がおいしいので、ご飯もお酒もおいしいですね。

目の前の人に喜んでもらうために進化し、
そういう自分にワクワクし続けたい。



LISA
GIFU CITY



■ 公益財団法人 国際文化会館

ロックフェラー財団をはじめ国内外の諸団体の支援により1952年設立。多様な世界との知的対話、政策研究、文化交流を促進し、自由で、開かれた、持続可能な未来づくりに貢献している。1955年に竣工した本館の設計には、岐阜県出身の建築家・坂倉準三も携わっている。

☑ 東京都港区六本木5丁目11-16

岐阜市プロモーション大使の活動を通して、
このまちの魅力をたくさん知りました。

STYLING 01
PHENOM style



国内の洗練されたブランドをセレクトし、主にユニセックスブランドを中心に男女問わずコーディネートできるスタイリングを提案する。隣接する系列店「phenomeric」ではより洗練された大人の女性のためのレディースショップを展開している。



■ PHENOM
☎ 岐阜市日の出町 1-13

永田 薫 PRESENTS
STYLING
in GIFU
CITY

まちの方の応援が、僕の支えになっています。

僕はデビュー以来、地元の岐阜市に関わる仕事がしたいと思っていました。その思いが少しずつ形になり、2019年の岐阜市プロモーション大使就任後はさまざまな形で岐阜市に関わらせていただいています。大使の活動を始めて改めて知ったのが、岐阜市の多様な魅力です。観光地の盛り上がりやまちのにぎわいを楽しめる一方、豊かな自然の中でゆっくりと心を休めることもできます。食事や買い物をするお店も充実していて、とても良いまちだと思います。

広報番組の取材などを行う際に感じるのが、このまちの人のあたたかさです。以前、たまたま取材に訪れた柳ヶ瀬の喫茶店で、お店の方から「薫くん？」と声をかけられたことがあって。聞くと、その方は僕の母の友だちで、「いつも陰ながら応援しているよ」と言ってくださいました。地元ならではの人のつながりや応援の言葉が、僕の支えになっています。

この先もっと全国を舞台に活躍できるようになり、岐阜の魅力を広く発信していくことが僕の目標です。「永田薫をきっかけに岐阜市の魅力を知った」と多くの方に言っていただけるよう、今後もがんばっていききたいと思います。



永田 薫さん
岐阜市出身。東海地方出身のメンバーで構成されたボーイズグループ「MAGIC☆PRINCE」のメンバー。2019年に「岐阜市プロモーション大使」に就任。岐阜市広報テレビ番組「あなたの街から岐阜市」に出演中。

STYLING 02
PEPS style

子どもの頃、長良川によく泳ぎに来ました。
今も川沿いを散歩するのが好きです。



「FISHING」「OUTDOOR」「WORK」「MUSIC」をキーワードに洋服や雑貨をセレクト。お土産をコンセプトにしたプライベートブランド「KISO THREE RIVERS(キソスリーリバーズ)」を中心に、釣りや音楽カルチャーにまつわるアイテムを販売している。



■ PEPS
☎ 岐阜市金宝町2-6 1F



県外から岐阜に帰ってくると落ち着きます。心が癒される感じがいいですね。

STYLING 03
LOOP THRIFT STORE style

オーナーがスケーターで、スケートボードと古着を販売するショップ。主にスケーター目線の古着を置いており、年に数回の海外買付けで揃えられた旬の商品が並ぶ。スケートボードも入手しやすいコアなブランドが揃い、パーツの相談から遊び方まで、生活の一部としてのスケートボードの楽しさも伝えている。



■ LOOP THRIFT STORE
☑ 岐阜市弥生町10 カネカワビル206



古着とオリジナル商品を展開しているショップでローカルの街角からカルチャーを発信する。古着のリメイク(シルクスクリーンを使用したプリントや刺繍カスタム)を中心に「気付いたら日常にフィットしたあなただけの一枚」を軸にニッチなアイテムと新しい価値観を提案。2022年末に店舗の営業を終了し、次のフェーズへ移行。



■ NEW OLD YORK
☑ 岐阜市金宝町1-9 後藤ビル 1F

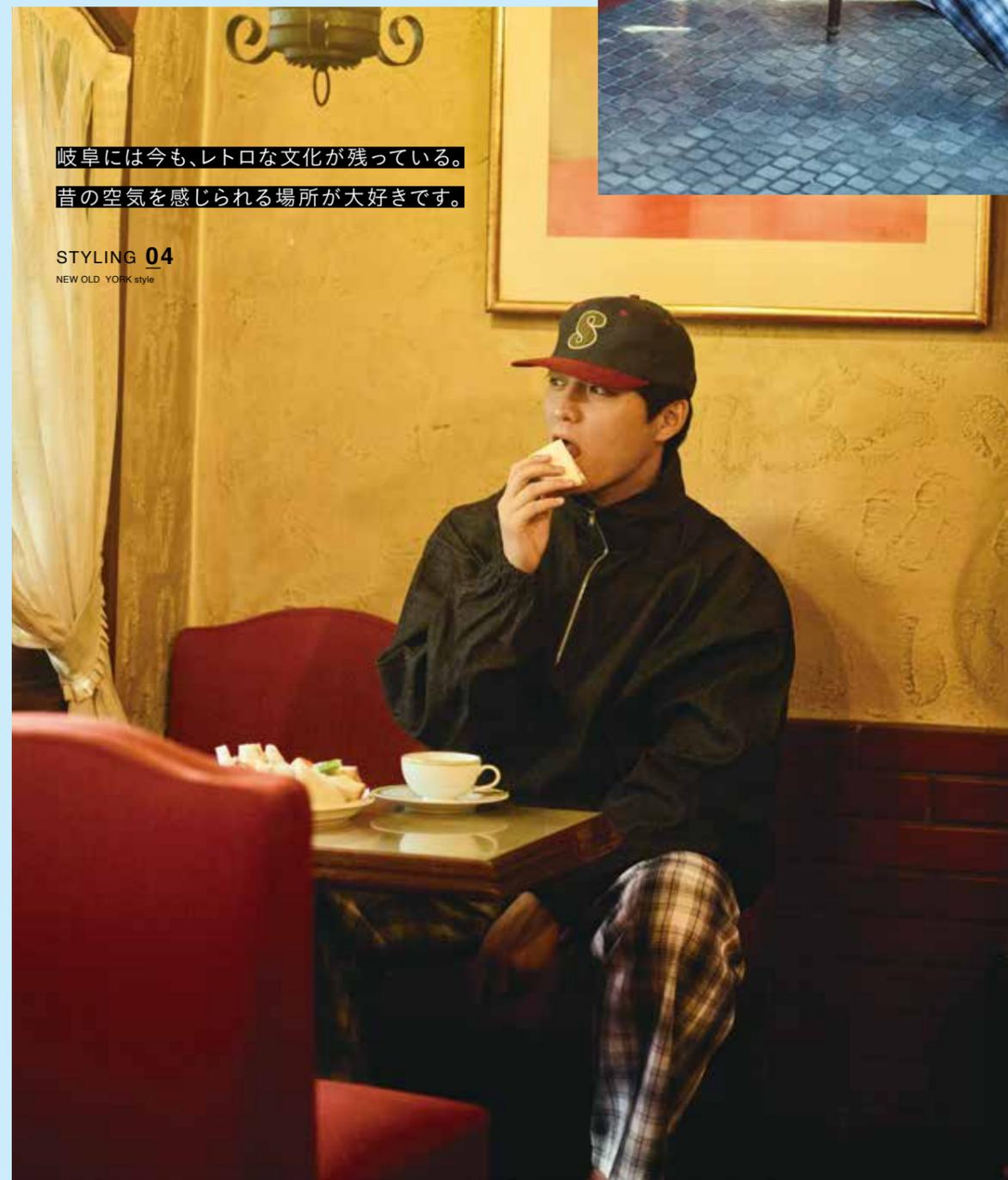
レトロな雰囲気人気の珈琲専門店。サイフォンを使って丁寧に淹れられたコーヒーは店主の味へのこだわりが詰まっている。名物はアイリッシュウイスキーを使った「アイリッシュコーヒー」で、目の前でアルコールを飛ばすパフォーマンスは一見の価値あり。



■ ル・モンド
☑ 岐阜市殿町1-4 小栗殿町ビル

岐阜には今も、レトロな文化が残っている。昔の空気を感じられる場所が大好きです。

STYLING 04
NEW OLD YORK style





行われたリノベーションスクールに参加した時にまち会社の人たちと知り合い、サンビルへの出店につながりました。友人の中に、美大に行って作家をめざしている子がたくさんいて、そういう子たちの作品をサンビルで売ろうと思って出店したんです。「文化のための何でも屋」という意味を含め、「文化屋」という名前で活動しました。そうするうちに、大学卒業後も柳ヶ瀬で何かをやりたいと思うようになりました。まち会社で働きたいけど、それができなかつたらアルバイトでもいいから柳ヶ瀬で働こうと思っていました。「絶対に柳ヶ瀬がいい!」と思って。

■大月:すごい。そういう意味で言うと、福富さんにきっかけを与えたサンビルのパワーというのはすごいよね。

■福富:はい。大きな存在でした。

■大月:サンビルはやっぱり「事件」ですよ。岐阜の歴史における、一つの事件だと思う。だって、ずっと人がいなかった柳ヶ瀬に、いまあんな人が来るんですよ。そしてサンビルをきっかけに、福富さんのような有望な方がまちに来たわけだから。

「やればいい」と背中を押す

―大月さんが2008年に広告制作会社「Signal」を設立された後、大月さんの後輩や関わりのあった方がたくさん独立されていると聞きました。

■大月:はい。「parkLiFE」で僕の下で働いていた子たちが、どんどん店を出しました。「College」「WALK ABOUT」などの店です。なかなか紹介し切れないのですが、岐阜の歴史を

■福富:当時から“兄貴感”のある方だったんですね。

■大月:兄貴というわけではなくて、対等な感じで話すのが好きだったんです。当時は他の店でも、ショップのスタッフにいろいろ相談するような関わりがあった気がします。

―お店が認知されるようになったきっかけはありますか？

■大月:金曜日と土曜日の夜に12時までの営業を始めたことです。その頃、自分が忙しい時にお客さんが増えると、みんなに対応することができなくて、どうしようかと思っていたんです。それなら、お客さん同士がしゃべれる時間を作ればいいんだ、と。その日は売上とかも気にせず、とにかくみんなをつなげようと思いました。

■福富:すごい!

■大月:そこから一気に広がりました。店でつながった人同士がクラブイベントをやったり、「いつから友だちになったの?」みたいなことがどんどん起きて、楽しさが一気に加速しました。

「絶対に柳ヶ瀬がいい!」

―福富さんの歩みもお聞きます。岐阜のまちにどんな思い出がありますか？

■福富:小学生の頃からよく、柳ヶ瀬で買い物をしていました。母が雑貨のお店が好きで、何かのご褒美の時とかに小さい雑貨を買ってもらった思い出があります。

■大月:小学生から? まちの子やなー!

■福富:その頃、柳ヶ瀬のまちはあまり盛り上がっていないイメージでしたが、実際に行ってみると面白い場所があることが分かりました。自分の行けるお店が一軒でもあったら、まちの見え方がだいぶ変わるのだと思いました。

―大学卒業後、民間のまちづくり会社である「(柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社(以下、まち会社))」に入社されたわけですが、どんなきっかけがありましたか？

■福富:大学生の頃に、サンデービルディングマーケット(以下、サンビル)に出店したことが一番大きなきっかけです。柳ヶ瀬で

Utuki Related Shop



■ Signal (シグナル)
大月さんが2009年に設立した広告制作会社。広告企画、広告戦略、ブランディング、コピーワークを柱に、顧客の要望に適したチームを組んで制作を行う。



■ parkLiFE (パークライフ)
ユニセクスの品ぞろえで、スタッフが丁寧に選んだ商品を販売するセレクトショップ。1999年に大月さんが初代店長として店の立ち上げに関わった。現在は、当時から関わりのある山川さんが岐阜市に移り住み、オーナーをつとめている。



■ College (カレッジ)
様々なストリートカルチャーにインスピレーションを受け、それらの空気感を落とし込んだセレクトショップ。オーナーである横山さんは地元アーティストのサポートも積極的に行っており、ショップはローカルシーンが交錯するたまり場の場所にもなっている。



岐阜の可能性はみんな感じていると思う。そういう空気感はないですか？

お客さんと対等に話すのが好き

―大月さんが店長をされていたセレクトショップ「parkLiFE」は、何年の開業ですか？

■大月:1999年です。

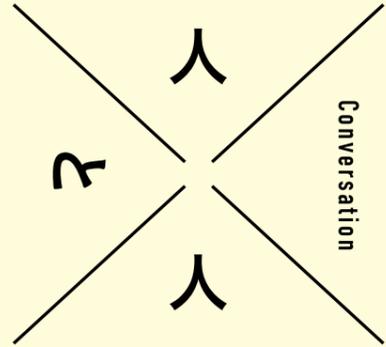
■福富:あっ、私が生まれた年です!

■大月:あの時代に福富さんが生まれたんですね。混沌としていて面白い時代でしたよ。

僕は印刷会社で働いた後、本屋の店長を5年務めました。その後、会社を経営している友人に誘われて岐阜で店をやることになったんです。メンズのストリートブランドのショップを作ることにしたんですが、自分たちが売りたいブランドはすでに他の店が取り扱っていました。そこで売ることにしたのが、自分が好きだった映画のビデオや写真集です。ビデオを400本くらいと写真集を600冊くらい置き、BMXという自転車も売りました。Tシャツの枚数は20枚くらいだけ。そういうどこにもないような店が、初期の「parkLiFE」でした。当然、最初は全然売れなかったんですけどね。

―印象に残っているお客さんとの関わりはありますか？

■大月:若いお客さんから「今週デートなんですけど、何を着ていったらいいですか?」などと相談された時に、コーディネーターするのが大好きでした。



対談



■ 大月 智弘さん
書店の店長を経て、セレクトショップ「parkLiFE」の開業時より店長を務める。その後会社「Signal」を設立。クリエイティブディレクターとして、幅広い分野の広告制作を手がけている。



■ 福富 梢さん
大学在学中に「リノベーションスクール@岐阜」に参加するなど、柳ヶ瀬のまちに関心を持ち、現在は柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社の社員として、「サンデービルディングマーケット」などの運営に携わる。

「岐阜って何もないよね」という言葉に対して、

「そうでもないよ」と言える人が増えてきた。

語る上で外せないショップがたくさんあります。

僕は、商品の力だけでお客さんを作ることに限界があると思うんです。やっぱり、お店に立っている人の力、人の魅力が重要だと思う。そういう店が結果的に長く続いている気がします。

飲食店で名前を挙げるなら、そういう流れを最初に作った「aLFFo」、これから新しい流れを作ってくれそうな「Takuro Coffee」に注目しています。

■福富：自分の店を出したい人が相談に来たとき、どんなアドバイスをしますか？

■大月：アドバイスはせず、ただ「やればいいじゃん！」と言うだけです。無責任なものですよ。

■福富：いや、皆さんきつと、先輩である大月さんにそう言ってほしいのだと思います。

■大月：大人ってよく、「そんなに甘くないよ」とか言いがち

ですが、自分が若い時はそういう大人と二度と話したくないと思っていました。なので、僕は「いいじゃん。絶対やりゃあ」としか言いません。で、店をやり始めた後は自分で考えればいと思ってているんです。考えて調整する力があれば大丈夫、とみんなに言っています。

大切な友だちがいる場所だから

■大月：福富さんは、まち会社の社員として「まちを良くした

い」とかそういうモチベーションはあるんですか？

■福富：実は最近、「まちづくり」という言葉が少しピンとこななっています。それ以前に、みんなが楽しく生きていけることが一番というか。お互いに干渉するのではなく、それぞれが楽しめたらいいな、と思います。

■大月：一緒！僕もいわゆる「まちづくり」には、ちょっとピンときていないです。もちろん、岐阜に住んでいて岐阜が好きですが、その前にやっぱり大切な友だちの存在があります。一緒にお酒を飲める友だちがいる場所だから好き、という順番です。

■福富：すごく共感します！岐阜というまち自体が好きというよりも、高校の時に部活の子たちと放課後にここに行ったな、とか、花火大会の前にみんなであのお店に行ったな、というエピソードが思

い浮かびます。それがあから岐阜で何かをやりたいたと思います。

■大月：自分の高校時代を振り返っても、「この店に行って、次はここに行って」というのが楽しかった。それって結局、人に会いに来ているわけですよね。みんながそういう感覚になれば、まちは勝手に盛り上がっていくと思っています。サンビルでも、出店者同士って仲良くなりませんか？

■福富：けっこう仲良くなりますね。

■大月：たぶん、お互いの商品を買って合ったりすると思うん



Otuki Related Shop



■ WALK ABOUT (ウォークアバウト)

金公園の通りから一本入った路地にある、古民家を改装したセレクトショップ。トレンドに左右されないデザインと国内厳選アパレルブランドを始め、海外買い付け商品、小物などを幅広くセレクト。食品なども扱い、ライフスタイルを提案している。



■ CAFE & BAR aLFFo (アルフォ)

「曲がり角のチルスポット」というコンセプトで、良質な音楽とともにおいしい食事やお酒を提供するカフェバー。DJ・アーティストによるライブイベントを定期開催している。



■ Takuro Coffee (タクローコーヒー)

自家焙煎のスペシャルティコーヒーのほか、ラテやチャイ、アルコールも楽しめる。週末に開催される音楽のイベントなど、楽しみ方は多様。「コーヒーが好きな人や音楽が好きな人、いろんな人に来ていただけたら」とタクローさん。

です。僕はあれがまちの原点だと思っています。近くの店の人が「今日ヒマなんですよ」と言っていたら、「後で靴下買いに行くわ」とか。それをみんなが自然にやれば、お客さんも「あそこの店同士、仲がいいんだ」と思って、いろんな店をまわりやすくなるはずなんです。そうすれば、まちに来るのが楽しくなると思います。

年齢が違って、「ひと対ひと」

一次の時代を担う福富さんに、大月さんからアドバイスをお願いします。

■大月：今のままで十分だと思うんですが、これから若手から中堅になっていった時に……いや、堅苦しい話するのは嫌だな。やめときます。

■福富：聞きたいです！

■大月：僕は、世代や年齢の違いはあまり関係ないと思っています。結局「ひと対ひと」だと思うんです。それさえ忘れなければ、ちゃんとした輪ができていくと思います。僕と福富さんだって年齢は離れているけど、「ひと対ひと」だから。

■福富：ありがとうございます。今日、大月さんが自分と対

等に話して下さっていることを、すごく感じました。だからこそ、人がついてくるということが分かった気がします。

—最後に、岐阜市の今後の可能性について感じていることを教えてください。

■大月：可能性はみんな感じていると思います。そういう空気感はないですか？

■福富：はい。「岐阜って何もないよね」という言葉に対して、

「そうでもないよ」と言ったり思ったりできる人が増えてきたと感じます。

■大月：僕も未だに、口では「岐阜は何もないもんね」と言ったりしますが、本心では何もないとは思っていないですね。紹介したいと思える人がいっぱいいるし、紹介したい店もいっぱいある。面白い子たちが店をやり始めているのは大きいと思います。

■福富：そういう面白い人たちが今後、いろんな形でまちに関わってってくれるのかなと思います。最近「柳ヶ瀬日常ニ

ナーレ」というイベントの準備をする中でも、そのことを感じました。

大月さんたちの世代の方々が、まちの価値を見つけてくれたからこそ、今があるのだと感じます。先輩方のおかげで、自信を持って「何もないことはない」と言えるのが、今の状況だと思います。

■大月：考え方が大人！「ローカルの価値」というものを、福富さんのような若い人たちは自然に分かっている気がします。僕たちの世代が若い頃には持っていなかった価値観。なんかうらやましいなー。



小学生から？
まちの子やなー！

小学生の頃から、
柳ヶ瀬に来ていました。



Fukutomi Related Event



■サンデービールチングマーケット

手づくり品やこだわりのある商品が並ぶ、ライフスタイルを切り口としたマーケット。毎月第1土曜日、第3日曜日に柳ヶ瀬で開かれ、来街者5,000人規模、出店数は150を超える規模に成長した。



■リノベーションスクール@岐阜

まちの資源を使って地域の活性化に取り組み、実践型のスクール。岐阜市では、2019年から2021年にかけて3回のスクールが開催され、その中から新しい店舗などが生まれている。



■柳ヶ瀬日常ニナーレ

さまざまな体験プログラムを通して、柳ヶ瀬の魅力を感じられるプロジェクト。2022年11月からの約2か月間、個性あふれる柳ヶ瀬フリークたちが柳ヶ瀬のまちの魅力を案内する。

Live

「若者の住まい」

GIFU CITY

Live

「暮らす」というテーマで岐阜市を紹介するページです。

岐阜市に住んでいる人たちは、自分のまちにどんな魅力を感じているのでしょうか。

働き、遊び、子育てをする。そんな日常が「ちょっといいな」と思えるような、

暮らしの様子を見ていきましょう。

Live 01 / 16

若者たちの住む古民家が、 新たなコミュニティに

コミュニティハウス「おかつて」に住むのは、この場所を立ち上げた根崎さんと、建築設計事務所に勤める羽根田さん、大学生の多田さん。各自の部屋はあるが普段は共有スペースに集まることが多く、3人で熱く語り合うこともあるそうだ。東京から移り住んだ羽根田さんは、「知っている人が誰もいない土地で、受け入れてくれる場所があるのは心強いことでした」と振り返る。まちの人たちが遊びに来ることも多く、雰囲気はいつも賑やかだ。「僕たちよりも上の世代の人たちがふらっと来られます。この場所や僕たちの暮らしに興味を持ってきているのだと思います」と根崎さん。居心地の良い空間と3人の個性が人を呼び、新たなつながりが生まれている。

■ コミュニティハウス「おかつて」

伊奈波通りからほど近い、歴史ある商人町・鞠屋(うつぼや)町の一角にある。明治時代に建てられた築100年を超える町家をリノベーションし、シェアハウスやまちづくり会社の事務所として活用している。



Uターン後の暮らしでつけた岐阜の魅力 誰かに必要とされる場所をつくる

2022年2月に「ライフシェアスペースnoma」をオープンさせた、名和豪敏さんと香里さん。お二人は以前、名古屋に住んでいたが、第一子が生まれた2013年に岐阜に移った。香里さんの実家は、岐阜市鏡島で戦後からプロパンガス会社を営んできた家。その後継者になるべく、豪敏さんは勤めていた会社を辞め、義父が経営する会社「ネクスト名和」で働き始めた。しかしそこからしばらくは、悩みの多い日々を過ごしたという。

「プロパンガスの市場は縮小を続けているため、先々のために何か手を打たなくてはなりません。でも自分に何ができるかが分からず、答えの出ない時期が続きました」

また、意外なことに香里さんも、岐阜での生活にスムーズに溶け込めなかったという。

「一度外の世界を見て、いろんな人との出会いや新しい出来事を経験できる楽しさを知りました。でも岐阜に帰ってきたら、どこに行っても知り合いに会うような世間の狭さがあり、少し息苦しさを感じました」

そうした状況でまず、豪敏さんが動き出す。義父の弘八さんがかねてから力を入れていたリフォーム事業を発展させる形で、建築設計事務所を設立。建物を延命して有効活用するリノベーションに見出し、事業を展開していった。そして同時に力を入れたのが、プライベートの時間を使った地域活動である。文化や歴史に関心を持ってまちを歩き、地域の多様な魅力を見つけていった。その一環で関心を持ったのが、近隣の乙津寺である。仲間と一緒に緑日にマルシェイベントを開いたところ、大勢の人が喜んでくれた。

「僕たちが地域で何かを始めれば、子どもたちの思い出が一つできます。そういう取り組みを続け、『この場所がいいよね』と言える地域にしていきたいと思いました」

そうした豪敏さんの言動が、香里さんにも変化を与えたという。

「夫は外の地域から来たからこそ、新鮮な目で地域の魅力を見つけられたのかもしれませんが。その視点を通して、私も改めて岐阜の良さに気づくことができました」

名和さんの子どもたちは学校が終わると、自宅近くにある仕事場に「ただいま」と帰ってくるそう。両親や従業員、近所の人たちが一緒に子どもの成長を見守る光景には、香里さん



の幼い頃と変わらないあたたかさがある。

そうした日々を経てオープンしたのが、「ライフシェアスペースnoma」だ。コロナ禍で苦境にある飲食店や料理教室をサポートしたいという思いを出発点に、各スペースの機能を考えた。豪敏さんが設計を手がけ、隣り合う2棟の建物をリノベーション。1階には本格的な調理ができるシェアキッチンとデイリーショップを開設した。テイクアウト販売を行う飲食店や、月に数日だけ店を開きたい人などが利用している。「飲食店の方が新商品を開発してテストマーケティングを行うなど、新しいことにチャレンジする場になってほしいと思います」と豪敏さんは展望を語る。

2階のプライベートダイニングは料理教室などに利用されるほか、3階のゲストルームと併せて一棟貸しの宿のように使うこともできる。このように、地域の人が求める機能を多様な形で提供していることがnomaの特徴だ。

「必要とする人の気持ちに応えられる場所にしたいです。使う人や訪れる人が楽しく輝いてほしいという思いがあります」

ある利用者は、ここで子ども食堂を開きたいと話しているそう。困っている人を手助けしたいという気持ちを持った人や、新しいことに挑戦したい人が周囲にたくさんいると香里さんは話す。nomaの存在によって、「何かをやりたい」という気持ちが一つひとつ具現化されていく。人のつながりや、人を支えようとする気持ち。地域に育まれてきたものが形になって、新しい風景が生まれようとしている。

■ 名和豪敏さん・香里さん

名和豪敏さんは、2014年にリノベーションを専門とするマルホデザイン一級建築士事務所を設立。また2018年から(株)ネクスト名和の代表を務める。香里さんは2022年に立ち上げたライフシェアスペースnomaの管理・運営を担う。

■ noma

☎ 岐阜市大菅北2-26 ④ https://linktr.ee/noma_bldg





果物たっぷりのスイーツが、SNSで人気に 「愛されるスーパー」を守る3代目の挑戦



岐阜市黒野の小さなスーパーがいま、SNSやテレビで注目を集めている。「ハイショップふじた」の3代目、藤田尚樹さんの挑戦をご紹介します。

この店のルーツは、尚樹さんの祖父が60年以上前に開いた八百屋だ。その後現在の場所に移ってスーパーを開いた。2階の自宅で育った尚樹さんは、お弁当やお総菜を作る祖父や両親の姿をいつも間近で見てきた。

「僕は子どもの頃から、店を継ぐつもりで育ちました。将来のことを考えて、大学時代はアルバイト先で料理を学び、卒業後も2年間和食の店で修行しました」

実家に戻ったのは24歳の時。最初は毎朝市場に通い、父の教えを受けながら鮮魚について学んだ。そうして経験を積んできた尚樹さんは、今から10年ほど前にスイーツ作りを始める。しかし、その背景にはやむを得ない事情があった。

「魚や肉、野菜などの生鮮品は、毎日きれいに売り切れるわけではありません。半額に値下げしたりお惣菜に加工したりしないと、どうしてもロスが出てしまいます。傷のあるりんごがある時などにスイーツに加工せざるを得なかった、というのが実際のところですよ」

最初に作ったのは果物がたくさん入ったゼリー。スイーツづくりは未経験だったため、スマホでレシピを調べて独学で作った。自信はまったくなかったが、店頭で並べたゼリーは、驚くほどよく売れた。

「いま思うと、うちの店は祖父の時代から自家製の商品で成り立っていたんです。大きなスーパーやコンビニに売っているものとは違う、うちにしかない特長を感じて、お客様はスイーツを買ってくださったと思います」

尚樹さんは夢中になって新作の開発に取り組み、商品のバリエーションを増やした。さらに、2020年に始めたインスタグラムが、人気に拍車をかける。日々の商品情報を載せたところフォロワーがどんどん増え、県外からもお客さんが訪れるようになった。勢いは今も続いており、20種類、400個ほどのスイーツが毎日売り切れるという。

現在は10名ほどの従業員が製造に携わり、尚樹さん自身も19時頃から夜中の2時頃までスイーツを作る。朝起きると、完成したスイーツの写真を撮ってSNSに投稿し、それが終わると市場に行く。休日やプライベートの時間はあまり取れないそうだ。

尚樹さんが特に力を入れているのが、誕生日ケーキだ。手づくりの味わいと果物たっぷりの贅沢さが評判を呼び、毎日何個も注文があるという。

「友だちのお子さんの誕生日ケーキを作ることもあります。ホールケーキを買う時は特別な意味があると思うので、安心して頼んでいただけることをうれしく思います」

Instagramでの発信やテレビ出演は、大きな反響を呼んだ。もちろんそれは喜ぶべきことだが、そうしたメディアのみに頼るつもりはないと尚樹さんは言う。

「この店には、何十年も通ってくださる常連のお客様がいます。今はスイーツで注目されていますが、地域のお客様のために店頭の商品やお惣菜を充実させ、スーパーとしての満足度を高めていくことが何よりも大切だと思っています」

近年、品ぞろえ豊富な大手スーパーが増え、家族経営のスーパーは厳しい状況に置かれている。しかし一方で、地元で長く営んできた店には、常連客とのつながりやきめ細かいサービスなど、大手には真似できない強みがある。ハイショップふじたが守ってきた、まちのスーパーならではの魅力。それは尚樹さんの手で、大切に受け継がれている。



■ ハイショップふじた

旬の果物を使った手作りスイーツと豊富な種類のお惣菜が人気のスーパー。店長である藤田尚樹さんのほか、社長を務める父と母、妻の4人で店を営んでいる。スイーツは昼頃に売り切れることもあるほどの人気ぶりだ。

☎ 岐阜市黒野277 ☎ 058-239-0560



■ やまだ まりこさん

岐阜県生まれ。大学卒業後、ORGANデザイン室(現:合同会社ORGANデザイン室)勤務。2019年退社後、デザイン・絵や文字を描くことを中心に活動している。

「見えない理想」を表現する、デザインの力

岐阜市民にはなじみのある、「長良川おんぱく」のロゴマーク。これは、デザイナーのやまだまりこさんが大学在学中にデザインしたものだ。依頼者であるデザイン会社「ORGANデザイン室」との関わりができ、やまださんは大学卒業後に同社の社員になった。以後、NPO法人ORGANの活動(長良川流域の地域づくりを支援)に関連したデザインを、数多く手がけてきた。

「ORGANの理念を最初に聞いた時、地域に対する考え方に共感しました」。瑞穂市出身で、現在は岐阜市内に住むやまださん。長良川流域の文化を詳しく知る中で、地元への理解がさらに深まったという。

「地域の人に話を聞かせてもらったり、景色を見たりする機会があります。それらをつなぎ合わせることで、自分の中に一つの地域像ができます。仕事を通じてたくさんの気づきがありました」

2019年に独立し、フリーランスという立場に変わった。現在は、岐阜県以外の仕事を手がける機会も多いという。新たなデザインを依頼された時、やまださんはどんなことを考えるのだろうか。「デザインの役割は、現状あるものや目に見えるものを表現することだけではないと思います。私にご依頼くださる方は『今後こうしていきたい』という理想を持っていると思うので、その理想と(デザインの対象が)つながるように意識しています。デザインの好みは人によって違いますが、私が作ったものを好きと言ってくれた時は、良かった!と思います」。

Live 04/6



中学時代からの夢を叶え、牛を育てる仕事に

(株)早川畜産は、300頭以上の黒毛和種(飛騨牛)を飼育する畜産農家。ここで2021年から働く土本明里さんは、主に子牛の飼育を担当している。「牛によって人懐っこかったり怖がりだったり個性は違います。一頭一頭をよく見て、その子に合った管理を意識しています」。愛情深く牛に接する様子から、この仕事に対する思いが伝わってくる。

土本さんの家はサラリーマン家庭で、元から農業が身近だったわけではない。初めて牛を間近に見たのは、中学校の職業体験で酪農家の手伝いをした時。「牛ってかわいいな」と興味を持ち、農業高校に進んだ。牛に対する純粋な思いは岐阜県農業大学校に進んでも変わらず、就職時も迷いはなかったという。専門知識を活かして研究職などに就くこともできたが、現場で牛と接する仕事にこだわった。

岐阜市内の農家のほとんどが家族経営であり、社員として就農した土本さんのようなケースは珍しいそうだ。畜産農家の多くが後継者問題を抱えているが、(株)早川畜産では先代社長夫妻と2022年8月に社長に就任した息子さん夫妻が事業展開に力を注いでいる。家族の一員のように見守られながら働く土本さんの姿を見ると、地域の農業の未来に可能性を感じる。

「今は主に子牛の哺乳や出産の立会いをしています。繁殖の仕事にも関わらせてもらえるようになりました。一つひとつ仕事を教えてもらいながら、着実に成長できている実感があります」

牛を育てることが夢だったから、毎日がとても楽しい。そう話す土本さんは、自分の天職にまっすぐ向き合っている。



■ 土本 明里さん

岐阜県農業大学校を経て2021年4月に(株)早川畜産に就職。「農業は大変な仕事というイメージがあると思いますが、休みもきちんとあって働きやすい職場です。農業の機械化が進み働き方も変わってきていることを、多くの人に知っていただきたいと思います」と話す。



米澤さん夫妻に岐阜市の子育てについて聞いてみよう!

Q 親子でよく遊びに行く場所がありますか?

A (朋子さん) 長良公園はよく行きます。小さい滑り台など年齢別の遊具があり、安心して子どもを遊ばせることができます。また、メディアコスモスなど、同世代の人が集まりやすい場所があることも岐阜市の魅力です。

体調不良の子どもを病児保育施設へ送迎

市内保育所(園)や小学校に通っている満1歳~小学3年生までの子どもを対象に、保育所(園)や小学校で体調不良になった際、病児・病後児保育施設の看護師が保護者の代わりに迎えに行き、診察後、一時的に預かる制度があります。※事前登録が必要です
 〓 岐阜市子ども保育課 058-214-7826

Q 岐阜市は子育てがしやすいですか?

A (彰太さん) はい。ほどよい利便性があり、自然も適度にあって、子育てがしやすいと思います。また、わが家のように夫婦の実家から近い場所に住むのもおすすめです。困った時に子どもを預けることができ、とても助かっています。

岐阜市子育て支援団体連絡協議会

NPO法人や市民団体などで構成され、楽しく安心して子どもを産み育てられるまちづくり、子育て環境の充実を目指して、子育て支援に関する情報の収集・発信、交流会や研修会の開催等を行っています。
 〓 NPO法人グッドライフ・サポートセンター内
 goodlife@ip.mirai.ne.jp

みんなの森 ぎふメディアコスモス



市立中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザからなる複合文化施設。ホールやギャラリー、カフェなどもあり、子どもからお年寄りまでさまざまな人が集まり、学び、繋がる、市民の憩いの場です。



ぎふ古今(シビックプライドプレイス) (出典)日本経済新聞(NIKKEIプラス1)
 ぎふメディアコスモスを起点としたまち歩き情報ははじめ、市内の懐かしい写真やユニークな活動をするひとを紹介。岐阜の魅力を過去・現在・未来にわたって感じられるシビックプライドの拠点として、世代を問わず気軽に楽しめるエリアです。

〓 岐阜市市町40-5 〓 9:00~21:00(市立中央図書館は20:00まで)
 〓 毎月最終火曜日(祝日の場合は翌日)、12月31日~1月3日ほか
 〓 058-265-4101(総合案内)

岐阜公園



遊具が集まる「ちびっこ天下広場」、歴史博物館や美術館などが併設されています。

長良公園



大型複合遊具や幼児向けの遊具など、子どもの成長に合わせた遊具がそろっています。

岐阜ファミリーパーク



めずらしい立体コースのゴーカートや東海3県最長180mの長大ローラーすべり台など、ファミリー向け遊具施設がたくさん。

ぎふ木遊館



県産材でつくった10種類の大型遊具や100点を超える木のおもちゃで遊ぶことができます。〓 058-215-1515

“セントラルパーク”金公園を再整備



新しい金公園には、都心部に緑を感じ、あたたかな陽光がふりそそぐ“芝生広場”を整備します。緩やかな傾斜を付けた芝生広場は、日常における憩いやくつろぎの場として、また園内に設けられた“小高い空間”は、広場を見渡せる休憩場所やイベント時にステージとして活用できるなど、魅力的な公園へと整備を進めています。

〓 岐阜市公園整備課 058-214-2183

Live 「子育て」

GIFU CITY



Live 0616

人のつながりに支えられた、コロナ禍の子育て

米澤さん夫妻に長女が生まれたのは、2019年の12月。その頃、日本中で新型コロナウイルス感染症への不安が高まっており、しばらくすると気軽に外出することが難しくなった。「公民館のベビーサークルが中止になるなど、他のお母さんとの接点がなくなりました。孤独な状況で子育てが始まりました」と朋子さんは振り返る。

そんな日々の中で支えになったのは、お気に入りのコーヒー店で過ごす時間だった。店主夫妻は子ども好きで、自身の経験をふまえて子育ての相談に乗ってくれたという。ここで過ごすわずかな時間が朋子さんの力になった。

その後二人は、彰太さんの実家があった場所に自宅を新築。生活環境の変化が子育てにもプラスに働いた。彰太さんは言う。「僕が中学時代まで住んでいた場所だったので安心感がありました。近所の方が気さくに声をかけてくれて、子育てがしやすい環境です」。新しい環境で暮らし始めた朋子さんには多少の不安があったが、彰太さんの幼馴染と出会って親しくなるなど、友だちづくりもスムーズに進んだ。「夫の地元ならではの縁だと思います。改めて、岐阜は人がつながりやすいまちだと感じます」と朋子さんは話す。

コロナ禍の慌ただしさの中で始まった子育て。朋子さんの毎日は息つく暇もなかったが、家事や子育てについて夫婦で話す機会が増え、うまく役割分担ができるようになった。「土日は夫が多くの家事を担当してくれるので、その間に休息を取ったり自分の時間を楽しんだりできるようになりました」と朋子さん。生活環境が整い、人のつながりに支えられながら、充実した子育てライフを実現している。



■ 米澤彰太さん・朋子さん

彰太さんは岐阜市に本社を置く西濃印刷(株)に勤務。「WEBマガジン aun」の編集・ライターとして、岐阜の魅力発信に力を注いでいる。



岐阜には
クリエイティブな
人がいっぱい!

ウェディングドレスを専門に作る
ドレスデザイナーです。

力を入れていることは?
「ウェディングドレスを専門に作り続け、これまで約450組の花嫁様の晴れの日のお手伝いをさせていただきました」
岐阜市の好きなおところは?
「クリエイティブな人たちと出会えるところ」
夢は何ですか?
「ドレスをお召しくださった花嫁様のお子様やお孫様の晴れの日の時も、お手伝いさせていただくことが私の夢です」

ドレスデザイナー・アトリエ花みち代表

浅野 優子

1989年
生まれ



岐阜の
バランスの
良さが好き



自営業 (アクセサリーの制作・販売)

林 大策

1990年
生まれ

彫金技法を用いて
アクセサリーを制作しています。

力を入れていることは?
「彫金技法を用い、主に真鍮とシルバーを使用してアクセサリーを制作しています。シンプルで長く使えることを意識して作っています」
岐阜市の好きなおところは?
「山や川とまち、チェーン店と個人店、古いものと新しいものなどのバランスが良いところ」
夢は何ですか?
「今の制作と生活を続けることです」



岐阜市で活躍する若手たち

NEXT GENERATION LEADERS

今までの常識を飛び越えて、大きな舞台で活躍!
そんな将来を期待できる人材が、岐阜市にいます。
次の時代を担う人材の中から、6名の言葉を紹介します!



スノーボードは個性が大事!

プロスノーボーダー

村瀬 由侏

2007年
生まれ

ワールドカップに向けて
練習に力を入れています。

力を入れていることは?
「ワールドカップに向けた練習に力を入れています。スノーボードは個性が大事なスポーツなので、自分を表現することを大切にしています」
岐阜市の好きなおところは?
「景色や空気のきれいなところが好きです」
夢は何ですか?
「ワールドカップでたくさん表彰台にのぼり、オリンピックの舞台に立てることができるようになること。そして金メダルを獲ることです」

2022年世界ジュニア選手権の
スロープスタイルで優勝

プロスノーボーダー

村瀬 心柊

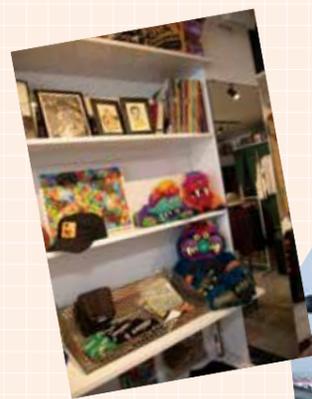
2004年
生まれ

ミラノオリンピックで
金メダルを取りたい!

力を入れていることは?
「普段から大会本番をイメージし、妹と支え合って練習しています」
岐阜市の好きなおところは?
「岐阜は景色がすごくきれいで、大好きなまちです」
夢は何ですか?
「近い将来の夢は、2026年のミラノオリンピックで金メダルを取ることです。その後も活躍し、『スノーボードと言えば村瀬心柊』と言われるようなカッコいい選手になりたいと思います」

2022年北京オリンピックのスノー
ボード・ビッグエアで銅メダル獲得

妹と支え合っ
て練習しています



ラッパー

梨 固

1997年
生まれ

夢は日本武道館で
LIVEすること

第9回高校生ラップ選手権優勝、テレ
ビ朝日「フリースタイルダンジョン」に
モンスターとしてレギュラー出演

大物家具を得意とする、
古道具店オーナーです。

力を入れていることは?
「東海地方では少し珍しく、大物家具を得意としています。壊れている家具なども、ほぼすべて自社で修理しています」
岐阜市の好きなおところは?
「自然が多いところや、困った時に助けてくれる人がたくさんいること。人との距離感が程よく過ごしやすと感じます。県外の方から言われて改めて気づきました」
夢は何ですか?
「スタッフの“やりたいこと”を叶えてあげたい。一緒にカタチにしていきたい」

古道具mokkumokkuオーナー

上田 沙奈

1993年
生まれ

壊れている
家具も
修理します!

HipHopのフィルターを通して
岐阜の魅力を全国に届けたい!

力を入れていることは?
「LIVE、音源制作、イベント開催」
岐阜市の好きなおところは?
「自然とまちと人がバランス良く成り立っている感じが好きです。そのバランスが人の性格に表れていると感じた時、より岐阜の良さを実感します」
夢は何ですか?
「HipHopのフィルターを通して岐阜の魅力を全国に届けたいです。武道館でLIVEできるようなアーティストになって、お世話になっている地元の先輩や仲間と一緒にステージに立ちたい」



Next Generation Leaders

The Answer is in Gifu City

Visit/Taste

「伝統工芸」

GIFU CITY

Visit/Taste

まちは日々、変化しています。その動きを体感するためには、

実際にまちを歩くのが一番。

いま注目のお店やスポットを訪ね、じっくりと魅力を探ってきました。

「訪れる」「味わう」というテーマで、リアルな岐阜市の姿を見ていきます。

Visit/Taste 01 / 15

未来に受け継ぐべき工芸品として、 さらなる技術継承に力を注ぐ

岐阜は日本の和傘の約6割を生産する一大産地だが、近年は職人の高齢化が進み、部品製作を担う人材が減り続けている。そうした中、後継者育成活動を行うために立ち上げられたのが、(一社)岐阜和傘協会だ。特に後継者不足が顕著な傘骨やロクロの職人見習いを募り、継続的に雇用するなど、人材育成の取り組みを進めている。

そうした関係者の努力が実を結んだのが、2022年3月。岐阜和傘が、経済産業省の伝統的工芸品に指定された。未来に受け継ぐべき工芸品として正式に認められたことは、岐阜和傘のブランド力向上や技術継承につながる大きな一歩だといえる。

■ 長良川でしごと町屋 CASA

築100年の町家をリノベーションした、岐阜和傘の専門店。店長の河口郁美さんは、「この店は、いつでも立ち寄って気軽に岐阜和傘をご覧いただける場所です。多くの方に『和傘ってきれいだな』『和傘を使ってみよう』と思っていただき、職人さんの仕事を知っていただくことが私たちの使命だと思っています」と話す。



Visit
「ファッション」
GIFU CITY

Visit/Taste 02/5



「僕が縫った服です」と、一人称で語れる強さ 縫製工場が自社ブランドを立ち上げるまで



「XX DEVELOPMENT」の代表・戸谷太一さんは、岐阜県海津市の出身。「洋服を作る仕事がしたい」という思いを抱えて大阪に出た。その第一歩として23歳で始めたのが、ジーンズの裾上げや穴補修の仕事である。その後、自宅に中古の工業用ミシンを何台も置き、ジーンズの製造を始めた。オリジナルのジーンズを店に置きたいショップ経営者の間で、その存在はすぐ噂になる。大阪のみならず全国から依頼がくるようになった。

注文数が100本単位にまで増え、一人では対応できなくなった時に縁ができたのが、地元・岐阜の縫製工場だ。いくつもの工場の協力によって多くの受注に対応できるようになった戸谷さんは、2007年に拠点を岐阜市に移した。その後、大手メーカーとの取り引きが始まり、毎回700~800本発注が来るほど事業が拡大。自分ではミシンには触らず、多くの協力会社を動かす司令塔のような立場に徹した。

しかし、順風満帆な事業拡大は突如終わる。大手メーカーが民事再生法の適用を申請する事態になったのだ。ひたすら前進を続けてきた戸谷さんだが、ここで方向転換することを迫られた。使わなくなっていたミシンを集め、もう一度自分たちで洋服を縫うことを決めた。

その頃に入社したのが、ディレクターの吉川健太郎さんだ。ファッションデザイナーという夢を叶える場所として、同社を選んだ。内製化に舵を切った後、XX DEVELOPMENTの技術へのこだわりは評価され、世界的なブランドからも依頼が

来るまでになっていた。設備投資を借しまず、理想のものづくりを追求する日々。その中で吉川さんは着実に腕を上げていった。しかしある時、吉川さんはこんなことを言った。

「戸谷さん、“俺の服”がないんです」

吉川さんは友人からよく、「今着ている服って自分で作ったの?」と聞かれたそう。しかし、仕事で縫っている洋服は他社ブランドのもので、自分の服と呼べるものではない。そのことにジレンマを感じ始めていたのだ。

ちょうどその頃、従業員がモチベーションを持って働ける環境づくりについて考えていた戸谷さん。吉川さんの言葉を聞いて“俺たちの服”を作ろうと決めた。2019年に立ち上げた自社ブランドの名前は、「ノーコンプライ ジーンズ」。コンプライと言う言葉には、「仕様」や「規則」などの意味がある。仕様書通りに洋服を作ってきたやり方に区切りをつけ、オリジナリティのあるものづくりをする。そうしたメッセージを体現し、従業員みんなで熱い気持ちを共有しながら洋服を作った。

自社ブランドの展開を加速させたのが、SNSの活用だ。自分たちの言葉で商品のこだわりを伝え、購入してくれたお客さんに感謝の言葉を伝える。また、国内外のお客さんから商品の感想が直接届く。戸谷さんや吉川さんが出演する動画も始めた。

「普通はみんな、自分が着ている洋服を縫った人のことを知りませんよね。でも、この動画で吉川は『僕がこの服を縫いました』と話しています。そのことをお客様は新鮮に感じてくださっているようです」

お客さんは商品の品質だけでなく吉川さんの個性や成長していく姿など、すべての情報をブランドの価値と感じているようだ。人の姿や言葉を全面に出したプロモーションが成功し、ブランドの認知度は日増しに高まっている。

「岐阜の繊維産業が苦境で……という話はもう聞き飽きましたよね。そうじゃなくて、岐阜ってすごいよ、という言葉をどんどん発信していくべきだと思います。こんなに面白い場所があります、こんなに個性的な人がいますって」

ジーンズの裾上げからビジネスを立ち上げた戸谷さんの歩みには、繊維産業で生きていく人の参考になる知見が詰まっている。現在進行形の挑戦に、今後も注目したい。

■ XX DEVELOPMENT (ダブルエックス デベロップメント)

2003年に大阪で創業。2007年に拠点を岐阜市に移し、縫製工場として実績を積む。2019年に自社ブランドを立ち上げ、ファクトリーインショップとECサイトをスタートする。「ノーコンプライ ジーンズ」のほか、生活雑貨、レザーアイテム、ガーゼマスクのブランドを展開している。

〒岐阜市本荘西3丁目8 ☎ 058-253-2630





この場所が、岐阜をもっと面白くする 小さな店から始まった、2人の若者の挑戦

美殿町商店街の一角に、小さな飲食店が集まる開屋というスポットがある。2022年4月、この場所に誕生したのが、カフェ&バー「ひとやすみ」だ。高校時代の同級生である渡邊百恵さんと寺田匠吾さんが共同経営している。

飲食店を立ち上げたきっかけは、2021年に大学4年生だった渡邊さんが市内のレンタルスペースで期間限定のカフェを開いたこと。パートナーを探さず思いついたのが、お菓子づくりが得意な寺田さんの存在だった。寺田さんには本業があったが、週末に店を手伝ってくれることになった。

「自分が作ったものをお客さんに提供し、自分の目の前で喜んでいただける。初めてそういう経験ができて、すごくやりがいを感じました」

と寺田さんは振り返る。数か月にわたって不定期営業したこのカフェには、2人の友人がたくさん足を運んでくれたという。この時の渡邊さんは、大学卒業を控えた時期。就職先が決まっていたが、ある理由で辞退することになった。別の就職先を探そうか、それとも思い切って自分の店を作ろうか。悩む気持ちを寺田さんに伝えたところ、意外な言葉が返ってきた。

「百恵がやらないなら、俺一人でもやるよ」

この時すでに、寺田さんは勤め先を辞めて飲食の道に進むことを決めていたという。前向きな言葉が、渡邊さんの背中を押した。

「寺田君の考えを聞いてちゃんと店を構えようという気持ちになりました」

同じ頃にしたのが開屋の存在である。オーナーに出店の希望を伝えたところ、温かく受け入れてくれた。厨房機器や備品などの初期費用は70万円ほどで、一部をクラウドファンディングで賄った。友人や家族だけでなく面識のない人からも支援が集まり、出店にこぎつけることができた。

「思い切って自分の店を持ったからこそ気づけたことがあります」

と寺田さん。期間限定のカフェを開いた時は一人でも多くのお客さんを集めることが重要だったが、常設の店では事情が異なる。地道に商品力を高め、店自体の魅力で勝負することが必要だと感じた。現在、商品開発は主に寺田さんが担

っている。その代わりに共感し、頻繁に通ってくれるお客さんも増えてきた。

「僕と同年の男性のお客さんで、チラシに書いた商品に興味を持って定期的に通ってくださる方がいます。商品に対する細かいこだわりが気づいてもらえるとうれしいですね」

一方で渡邊さんは、少し違った視点で手応えを感じている。

「友だちから言われてうれしかったのは、『ここに来ると知らない人と出会えるからワクワクする』という言葉です。店を作って良かったと思えました」

大学時代にサードプレイスやまちづくりについて研究してきたという渡邊さんは、人と人がつながる場所やきっかけを作ることに興味を持っている。いま特に力を注いでいるのは、岐阜を面白いまちにするための拠点づくりだ。2022年8月から柳ヶ瀬の3階建てビルを借り、新たな事業を始めた。

「若い人たちが岐阜のまちを巡回するためのコースを、自分たちの手で作りたと思っています。岐阜には面白い人がたくさんいて、魅力ある場所もたくさんあります。岐阜の魅力に気づいていない人に、とにかく一度柳ヶ瀬や美殿町に出ておいでよ、と伝えたいと思います」

未経験でも、やりたいことを思い切って始めてみる。そんなまっすぐさがたくさんの人を動かしてきた。二人の若者が立ち上げた小さな店から、岐阜の新しい文化が生まれようとしている。



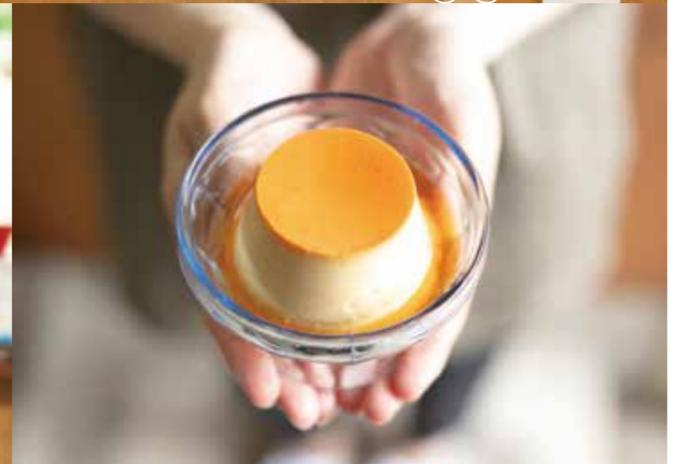
■ カフェ&バー ひとやすみ

2022年4月、岐阜市美殿町の開屋にオープン。高校時代からの友人である渡邊百恵さんと寺田匠吾さんが共同経営する。看板メニューのプリンやカヌレのほか、ティラミスやチーズケーキなどこだわりのスイーツを味わうことができる。

☎ 岐阜市美殿町46 ☎ 050-3395-2104



Visit/Taste 03/5





Visit/Taste 04/15

金華山の真下で、「水上散歩」を楽しむ

長良川の鶺鴒エリアがいま、川遊びのスポットとして注目されていることをご存じだろうか。「地元の方でも長良川に入った経験がある方は少なく、『こんなにきれいだったんだ!』と驚かれます」と話すのが、アウトドアショップFreak代表の小鹿哲也さんだ。SUP(サップ)というアクティビティを楽しめる場所を探中で、最適と感じたのがこのエリアだった。「大きな川なのに堤防や護岸がなく、ほぼ自然のままの状態です。県庁所在地の真ん中を流れている川でこれほどのきれいさは格別ですね」。

小鹿さんたちが長良川でSUPを始めたのは2012年。当初は、店舗のある大垣から毎回ボードを運ぶなどの手間がかかっていた。そんな頃に小鹿さんたちに声をかけたのが、周辺の複合施設「&n(アンドン)」のメンバーである。「&nの中に拠点を設けませんか?」という渡りに船の提案を快諾。川まで歩ける場所に拠点ができ、より快適に川遊びを楽しめるようになった。

当初は団体客が中心だったが、最近は利用者の半数以上が親子連れの個人客だという。「お子さんの中にはSUPに乗っている時間よりも川に飛び込んでいる時間の方が長い子もいます。形にこだわらず、自由に川を楽しんでいただきたいと思います」と、スタッフの清水貴文さんは話す。県外のお客さんが岐阜観光の一環としてSUPを楽しむケースや、自治体などが教育プログラムに取り入れるケースも増え、長良川のSUPは単なるレジャーを超えた存在になりつつある。ボードの上で立った時の爽快感や水上から見た景色の美しさなど、SUPでしか味わえない感動をぜひ多くの方に知ってほしい。

■ アウトドアショップ Freak アンドン店

地域密着のサービスを提供するアウトドアショップ。岐阜市長良の&n(アンドン)にSUP専用の拠点を持つ。アウトドアを熟知したスタッフが幅広い年齢のお客さんにSUPの楽しさを伝え、長良川の魅力を発信している。

☎ 岐阜市長良45-1 ☎ 058-338-1015



Visit/Taste 05/15

絵画の色彩世界を表現した、3隻の高級観覧船

小説の世界では、川端康成の「篝火」など長良川を描いた作品が数多くありますが、絵画では岐阜市を代表する画家の加藤東一氏が、「総絡み」という作品を残しています。

その「総絡み」で表現された色彩をテーマカラーにした3隻の高級観覧船が、2022年5月に就航しました。「花篝(はなかがり)」の色のイメージは、橙や緋色などの篝火。また「藍山(あいやま)」は金華山の深い闇や川面の深いブルーを、「白月(しらつき)」は、闇の中に光る青白い月の光を表現しています。

船内は、従来の座敷形式ではなく両側にソファ席を配置。また、食事をする場合や食後に乗船する場合など、用途に合わせてテーブルのレイアウトを変えることができます。調光できる間接照明を使用し、やさしく包み込むような雰囲気演出していることも特長です。快適さを追求した高級観覧船から眺める鶺鴒を、ぜひお楽しみください。

☎ 岐阜市鶺鴒観覧船事務所 058-262-0104



岐阜市プロモーション大使「鷺見玲奈」さん出演動画



「美と技とおいしさ! 長良川鶺鴒の夜」編



「街歩きで発見! 伝統と新しさに出会う」編

「鷺見玲奈 × 岐阜市」



2022年9月、市出身のフリーアナウンサー「鷺見玲奈」さんに、市プロモーション大使を委嘱しました。鷺見玲奈さんが出演するプロモーション動画は、市公式YouTubeチャンネル『COLORS.Gifu City』で公開しています。

\\ 岐阜を代表する名所 //

登りたくなる金華山

岐阜市の中心部に位置する金華山。
子どもから大人まで楽しめる登山道があり、
山頂では濃尾平野を一望できる展望レストランでご当地グルメが楽しめる。

私たちが紹介します！



河本篤さん

岡山県出身の体を動かすことが好きな25才。岐阜市で働きながら、柳ヶ瀬商店街の中にあるシェアハウスで愉快な仲間たちと暮らしている。



高橋香澄さん

高知県出身の食べることが好きな23才。岐阜市で働きながら、柳ヶ瀬の魅力を発掘中。

山頂付近



あと少し…

GOAL!



信長期以降に築かれたと考えられる石垣。すごい技術に感動。

岐阜城

金華山山頂にある岐阜城。天守閣から360度の大パノラマを楽しめます。



展望レストラン



大人気の信長どて井

岐阜の銘菓「鮎菓子」

豚ホルモンと牛すじを岐阜味噌で煮込んだどて井。岐阜を代表するご当地グルメ！

いただきます！

絶景すぎる!!



気持ちいい!

最高の眺めだ〜!

ここからの眺めは最高!

ビューポイント

「めい想の小径」コースには道中にビューポイントがあり、写真スポットとしても人気の場所。



冷たくて気持ちいい!



落ち着くな〜

リスとふれあい体験



金華山リス村

ロープウェイの「山頂駅」を出て、すぐの場所にあるリス村。エサやり体験ができ、人懐っこいリスが肩に乗ってくることも。

あと少しだよ〜

どんぐり発見!!



金華山登山道MAP

Mt. Kinkasan Climbing

めい想の小径(水手道)

START!



ワクワク!ドキドキ!

自然を感じて〜

距離: 2.3km [所要時間約60分]

岐阜公園から金華山の北側を回るコース。山頂付近に険しい場所もあるが、家族で楽しみながら登ることができる。

山って面白い!



登るぞ〜

安全第一!



大自然を体感

登山道では面白い形の木や葉っぱをたくさん発見! 散歩気分で登山を楽しめます。

アニメに出てきそうな小みち



行ってきまーす!

Let's go!



START!

七曲り登山道(大手道)



距離: 1.9km [所要時間約60分]

岐阜公園の南にある、金華山ドライブウェイ入り口からスタート! 整備されている登山道で、子どもと一緒に楽しめるコース。



展望レストラン ル・ボン・ドゥ・シェル

山頂にある展望レストラン。信長どて井と信長バナナアイスが人気で、絶景の中で食べるご当地グルメは格別です。



金華山リス村

リスとふれあい体験ができるリス村。リス村のリスは人に慣れていて、近くでふれあうことができる。



金華山ロープウェイ

岐阜の街を一望できるロープウェイ。ガイドさんによる金華山の説明を楽しめる。



岐阜公園

岐阜公園内の休憩所では甘い味噌がマッチしたおでん、田楽が食べられる。



岐阜市シェアサイクル「Gifu-ride」



市内に設置するサイクルポートで、一部を除き24時間自由に借りて、自由に返却できる自転車貸出サービスです。目的に合わせて短時間(15分)から利用することが可能で、クレジットカード・キャリア決済が可能です。

岐阜市観光コンベンション課 058-214-2103

子育て・教育

こどもファーストのまち岐阜市



未来を担う子どもたちのことを第一に考えた取り組みを進めている岐阜市。切れ目のない支援の充実などにより、子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりに力を入れ、子どもたちがのびのびと育つまちを目指しています。

結婚新生活支援事業

岐阜市で新しい生活をスタートされるご夫婦に対し、住宅取得費用、住宅賃借費用、引越費用など最大60万円まで補助します。※年齢が39歳以下であることや所得制限などの補助要件があります。

☎ 岐阜市子ども政策課 058-214-2397

産婦健康診査

産後は心身の不調をきたしやすいため、産後うつ予防など、お母さんの心や体の健康のために、出産後8週間以内の産婦を対象に健康診査の費用を助成しています。

☎ 岐阜市健康増進課 058-252-7193

紙おむつ回収サービス

市内の公立保育所では、園児の使用済み紙おむつを保護者が持ち帰るのではなく、保育所で回収しています。

☎ 岐阜市子ども保育課 058-214-7825

子育て支援施設「ツナグテ」

柳ヶ瀬の新たなランドマーク「柳ヶ瀬グラスル35」の4階に、子育て支援施設「ツナグテ」が2023年春オープンします。「遊び」を通じて子どもの生きる力を養い、次代を担う子どもを育みます。



☎ 岐阜市子ども政策課 058-214-2397

オンラインババママ学級

妊婦さんとそのご家族が自宅から参加できる助産師によるオンラインの両親学級です。妊娠・出産・育児に関する情報提供や妊婦さん同士の交流をしています。

☎ 岐阜市健康増進課 058-252-7193

ぎふし共育都市プロジェクト

夫婦が共に子育てを楽しめるまちを目指して、男性の主体的な家事・育児参画を推進する「ぎふし共育都市プロジェクト」を実施しています。



☎ 岐阜市子ども政策課 058-214-2397

施設紹介

母子健康包括支援センター

市内3カ所にある保健センター内に、母子の健康を妊娠中から子育て期間までを切れ目なく支援する専用窓口を設置し、専任の職員(保健師)が妊娠・出産・子育てに関する幅広い相談に応じます。



☎ 岐阜市中母子健康包括支援センター 058-252-0631 (上記の電話番号は、春頃変更予定)
岐阜市南母子健康包括支援センター 058-271-8130
岐阜市北母子健康包括支援センター 058-233-3116

岐阜市子ども・若者総合支援センター「エールぎふ」

0歳から20歳前までの子ども・若者のあらゆる悩み・不安に対して、ワンストップで相談できる窓口として、一人ひとりの成長段階に応じて総合的・継続的な支援を行っています。



総合相談窓口：0120-43-7830
gifu-kodomo-wakamono@world.ocn.ne.jp

☎ 岐阜市明徳町11 ☎ 8:45～17:30
☎ 土曜・日曜・祝日、年末年始

こどもサポート総合センター

岐阜県・岐阜市・岐阜市教育委員会・岐阜県警察と連携を強化し、児童虐待等に係る児童の安全確保を図るため、「こどもサポート総合センター」を開設しています。県・市・県警が同一施設内で業務を行うのは、全国で初めての事例です。

☎ 岐阜市子ども・若者総合支援センター 058-269-1321

幼児教育の推進

幼稚園や保育園などの幼児教育施設だけでなく、小学校や研究機関、家庭・保護者、地域など、幼児期の子どもに関わるすべての人が協力しあう「オール岐阜」の体制で子どもの成長を支えています。

幼小をつなぐ

「小1ギャップ」を解消し、子どもの成長に寄り添う教育環境を実現するため、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭を対象とした合同研修会、実践公開を実施しています。

家庭教育の応援

子どもとの関わり方等を学べる「幼児教育セミナー」を開催しています。

実践研究の推進

幼児教育の質を高めるため、市立幼稚園にて公開保育・研究会を実施しています。また、幼児教育関係者のスキルアップを図るため、研修及び情報交流を行っています。



☎ 岐阜市幼児教育課 058-214-7124

ICT教育の推進

デジタル教材などのICT(情報通信技術)を効果的に活用した教育を実施しています。市内の公立全小・中学校、特別支援学校の児童生徒に既に貸与されている1人1台のタブレット端末を活用し、主体的・対話的な学びを推進しています。また、オンラインによる学習支援により、誰ひとり取り残さない学びを表現しています。



☎ 岐阜市学校指導課 058-214-2193

学校と保護者をつなぐ「連絡アプリ」導入

学校と保護者間のやりとり(欠席連絡や学校からの便り等)をデジタル化し、保護者の利便性向上と教職員の働き方改革を推進しています。



子どもの健康サポート実証事業

今まで見えなかった一人ひとりの子どもの「日々のこころや身体サイン(変化やアラート)の様子」を瞬時にキャッチし、きめ細やかなサポートを実現します。

施設紹介

ドリームシアター岐阜

「ふれあい・遊び・創造」をテーマとした施設で、手づくり遊具やクラフト体験、楽器遊びなどが楽しめる「子どものフロア」や、静かにゆったり過ごすことができる「ドリーム ホットスペース」があります。子どもや親子を対象としたセミナーやイベントも多数開催しています。



☎ 岐阜市明徳町6
☎ 9:00～21:00(日曜・祝日は17:00まで)
☎ ホームページにて確認
☎ 058-262-2811

岐阜市科学館

スケールの大きな実験ショーや多彩なプログラムを上映するプラネタリウムなど、参加体験型の展示を通して科学を学べる知的レジャー施設です。



☎ 岐阜市本庄3456-41
☎ 9:30～17:30(入館受付は17:00まで)
☎ 月曜(祝日の場合は火曜)、祝日・振替休日の翌日
年末年始(12月29日から1月3日) ☎ 058-272-1333

定住支援

今、住みたいまち岐阜市



岐阜から名古屋までは電車で20分～30分。名古屋圏へのアクセスが良く、主要施設が整備されている岐阜市の人気はますます上昇しています。岐阜市に移り住んで就職したい人、お店を始めたい人、空き家を改修して住みたい人などに、定住の際に役立つ様々な制度がそろっています。

ランキング情報

名古屋市中心部へのアクセスの良さなどから「岐阜人気」が定着



<西岐阜>は前回の40位から13位に躍進!

出典)不動産・住宅情報サイト「LIFULL HOME'S」調べ 2022年中部圏版 LIFULL HOME'S住みたい街ランキング

空き家改修費補助事業

新婚世帯、子育て世帯、市外からの転入世帯もしくは岐阜市版空き家バンクの掲載物件を購入された世帯で、2人以上の世帯を対象に、ご自身が定住するために空き家を購入し、改修する場合に、対象工事費用の1/2(居住用部分に限る。上限あり)を補助するものです。

空き家の売却について、インターネット上で情報を発信 岐阜市版空き家バンク



☎ 岐阜市空家対策課 058-214-2258

中心市街地活性化空き店舗活用事業

商店街の活性化やにぎわいの創出を図るため、空き店舗を活用して事業を行う新規出店者に対し、賃借料と初期費用の一部を補助する制度です。

※ 賃借借契約前に申請が必要です

☎ 岐阜市商工課 058-214-2360

移住・定住情報発信

移住・定住情報発信拠点「ココカラ」カラフルタウン岐阜の1階に情報発信ブースを開設。岐阜市へ移住された方の暮らしぶりなどを紹介し、岐阜市での生活の魅力を発信しています。



移住・定住情報発信サイト「ココカラweb」web版の情報発信サイトも同時開設。ブースとリンクした情報や移住・定住に関する支援制度をご紹介します。また、移住・定住相談のオンライン申込ができます。



ココカラweb



移住・定住相談 オンライン申込

☎ 岐阜市総合政策課 058-214-2019

新規就農者育成総合対策

次世代を担う農業者の育成・確保に向けて、経営発展のための機械・施設等の導入支援や経営開始資金の交付により、新たに農業経営を開始する方を支援します。

☎ 岐阜市農林課 058-214-2079

理想の住まいが見つかる

好条件の土地や物件も、岐阜市ならきっと予算内で見つかります。

1㎡の土地価格比較

岐阜市 16万9千円/㎡ (JR岐阜駅周辺)

名古屋市 29万6千円/㎡ (名古屋市営地下鉄八事駅周辺)

出典)令和4年1月1日 国土交通省地価公示 ※ 駅から600m地点の土地価格を比較

2LDKの家賃相場比較

岐阜市 7万5千円

名古屋市 10万4千円 (名古屋市全区の平均値)

出典)不動産・住宅情報サイト「LIFULL HOME'S」 「マンション・アパート・一戸建ての相場表(令和4年10月28日時点)

まちなか居住支援事業

まちなか居住重点区域にご自身が住むための住宅を新築・購入する2人以上の世帯に対し、建設・購入費の一部を助成します。子育て世帯などの要件により、助成額が異なります。

☎ 岐阜市まちづくり推進政策課 058-214-4494

☎ (一財)岐阜市にぎわいまち公社 058-201-4010

移住相談窓口(県外)

岐阜県 清流の国ぎふ 移住・交流センター 東京 窓口 080-7749-3317 名古屋 窓口 090-2619-2102 大阪 窓口 090-4083-0231

岐阜県 移住・定住ポータルサイト「ぎふぎふぎふ」



まちづくり・医療・健康

魅力あふれるまち岐阜市



岐阜市は、持続可能な開発目標(SDGs)の考えを取り入れながら、持続可能で成長する都市づくりを推進しています。市民が笑顔で健康的に暮らすための医療環境と安心の救急体制をはじめ、社会状況の変化にも対応するなど、安心して住みやすい岐阜市には、様々な魅力があふれています。

ワークダイバーシティの推進

「多様で柔軟な働き方」により誰もが自分らしく働ける環境をつくることで、全ての人に居場所と出番があり、幸せを実感することができる社会を構築します。

☎ 岐阜市労働雇用課 058-214-2358

ぎふしスタートアップ支援事業

岐阜市リモートオフィス(Neo work-Gifu)では、起業や経営上のあらゆる悩みに、専門家が無料で相談に応じる「スタートアップ相談窓口」を開設しています。岐阜商工会議所や地元金融機関と連携した「オール岐阜市」の体制で、起業前から起業後まで伴走支援します。



Neo work-Gifu

☎ 岐阜市高砂町1-17 岐阜イーストライジング24 2F ☎ 9:00~21:00(水・日曜のみ18:00まで) ※スタートアップ相談窓口10:00~18:00(月~土 要予約) ☎ 祝日 ☎ 058-264-8355

長良川水辺空間の魅力創出

清流長良川の歴史や文化、景観を活かし、水辺空間とまち空間との融合による魅力的なエリアの形成に向け、マルシェや夜市など、にぎわいの創出や回遊性を高める取り組みを推進します。

☎ 岐阜市ぎふ魅力づくり推進政策課 058-265-3980

公共交通への自動運転技術の導入

自動運転の実装を見据え、市役所から岐阜駅までの中心市街地を周遊するルートのほか、岐阜公園及び川原町界隈などの観光地を周遊するルートにおいて、実証実験を行うなど、公共交通への自動運転技術の導入に向けた取組を推進しています。



☎ 岐阜市交通政策課 058-214-2028

東海地方No.1の医療環境

人口10万人当たりの病院数・病床数・医師数がすべて全国平均を上回り、どれも東海地方の政令指定都市・中核市の中で第1位となっています。

Table with 3 columns: 人口10万人当たり, 岐阜市, 全国平均. Rows: 病院数, 病床数, 医師数.

出典)厚生労働省「令和2年 医師・歯科医師・薬剤師統計」 「令和3年 医療施設調査・病院報告」

救急車が現場に到着するまでの時間や、患者を病院に収容するまでの時間が全国平均と比べて早いなど、救急体制が整っています。突然の容態の変化や事故による負傷など、一刻を争う緊急事態のときも安心です。

Table with 3 columns: 岐阜市消防本部, 全国平均. Rows: 現場到着平均所要時間, 病院収容平均所要時間.

出典)消防庁「令和3年版救急・救助の現況」

柳ヶ瀬グラスル35 / 金公園

2023年春、柳ヶ瀬の新たなランドマークとなる「柳ヶ瀬グラスル35」が完成し、セントラルパーク「金公園」がリニューアルされます。「柳ヶ瀬グラスル35」には商業施設、公益的施設、都市型マンションが整備され、「金公園」には緩やかな傾斜をつけた芝生広場やイベント空間などができ、柳ヶ瀬エリアに新たな賑わいの拠点が誕生します。



☎ 岐阜市市街地再開発課 058-214-4629 ☎ 岐阜市公園整備課 058-214-2183

健康運動施設「ウゴクテ」

「柳ヶ瀬グラスル35」の3階には、健康に対する「意識」と「知識」を育み、健康づくりの拠点施設となる健康運動施設「ウゴクテ」がオープンします。



☎ 岐阜市健康増進課 058-252-7193

GIFU CITY EVENT CALENDAR



伝統ある祭りや、若者が中心となってまちを盛り上げる催しなど、1年を通して楽しめるイベントが盛りだくさんです。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止・延期になる場合があります。



岐阜城パノラマ夜景

GW、7月中旬～10月中旬の土・日・祝等開催
岐阜城パノラマ夜景

1月1日
岐阜城初日の出



岐阜城初日の出

1月21日～29日
ぎふ灯り物語
会場／岐阜公園ほか



ぎふ灯り物語

5月11日
ぎふ長良川の
鶺鴒開き
会場／長良川河畔



ぎふ長良川の鶺鴒

2月19日
全日本学生落語選手権
策伝大賞
会場／長良川国際会議場



全日本学生落語選手権 策伝大賞

3月上旬
ぎふ梅まつり
会場／梅林公園周辺



道三まつり

4月1日・2日
岐阜まつり・道三まつり
会場／伊奈波神社・中心市街地

4月8日
手力の火祭
会場／手力雄神社

4月23日
高橋尚子杯
ぎふ清流ハーフマラソン
会場／岐阜メモリアルセンターほか

サンデービルディングマーケット

柳ヶ瀬商店街で毎月第1土曜日と第3日曜日に開かれる「手づくり」と「こだわり」が詰まったライフスタイルマーケット



9月上旬
伝統文化のタベ
長良川薪能
会場／長良川河川敷特設舞台



長良川薪能

9月下旬
柳ヶ瀬ジュラシック
アーケード
会場／柳ヶ瀬商店街



柳ヶ瀬ジュラシックアーケード

11月上旬
岐阜産業・農業祭
～ぎふ信長まつり～
会場／中心市街地ほか(予定)

11月中旬
ぎふサイエンス
フェスティバル
会場／岐阜市文化センター

7月16日
長良川まつり・鮎供養
会場／長良川河畔・神明神社

JULY

8月(予定)
(仮称)ぎふ長良川花火大会
会場／長良川河畔



(仮称)ぎふ長良川花火大会(イメージ)

10月15日
ぎふ長良川の鶺鴒じまい
会場／長良川河畔



鶺鴒じまい

12月9日
池ノ上みそぎ祭
会場／葛懸神社



池ノ上みそぎ祭

12月22日(冬至)
こよみのよぶね
会場／鶺鴒観覧船のりば付近～
長良川プロムナード付近



こよみのよぶね

ぎふ長良川の鶺鴒

1,300年以上にわたり受け継がれてきた岐阜市が誇る伝統文化「ぎふ長良川の鶺鴒」は5月11日から10月15日まで開催し、例年全国から多くの観光客が鶺鴒観覧に訪れます。「長良川の鶺鴒漁の技術」は、国の重要無形民俗文化財に指定されており、ユネスコ無形文化遺産登録を目指しています。



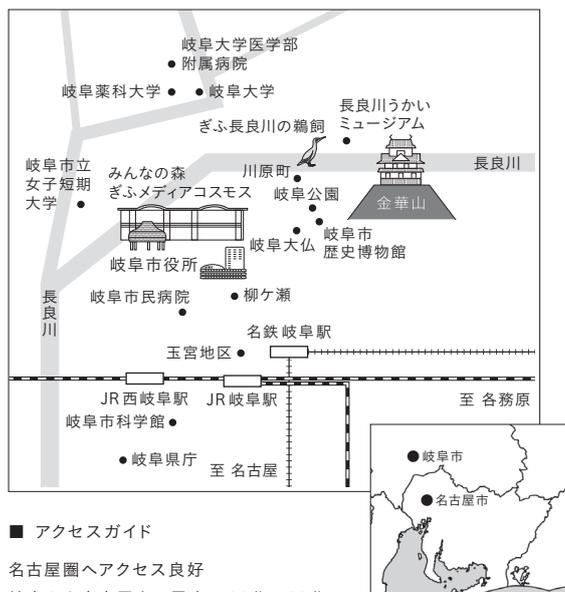
岐阜市鶺鴒観覧船事務所
058-262-0104

日本遺産第1号
「信長公のおもてなしが
息づく戦国城下町・岐阜」

織田信長が形作った戦国時代の城・町、そして長良川の鶺鴒文化は、岐阜城が城としての役割を終えた後も受け継がれ、今も岐阜の町に息づいています。



■ 岐阜市中心部マップ



■ アクセスガイド

名古屋圏へアクセス良好

岐阜から名古屋まで電車で20分～30分

JR新快速なら岐阜駅から名古屋駅間の停車駅1駅

■ 市公式 SNS



「エエトコタント岐阜市」Webサイト 

市公式シティプロモーションチャンネル
「COLORS. Gifu City」 

岐阜市ふるさと納税 

※ 本誌掲載のデータは2022年11月1日現在のものです。発行後に内容が変更となる場合がありますので、お出かけの際は電話等で事前に確認されることをおすすめします
 ※ 本誌及び本Webサイト掲載の内容、画像等の無断転載・無断使用を禁じます
 ※ オークションサイト等での本誌の転売行為を禁じます
 ※ 金額は変更になる場合がありますので、詳しくは各施設・店舗にお問い合わせください
 ※ 掲載店舗は市民アンケート結果や、関係団体などの推薦に基づいて選定しています
 ※ 本誌掲載内容による損害賠償等は補償いたしかねますので、あらかじめご了承ください
 ※ 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して取材を行いました

企画 株式会社ミユキデザイン
 デザイン RADICAL 岩井 宏和 / 長谷川 愛海
 コピーライティング grain 堀場 繁樹
 撮影 TONE TONE PHOTOGRAPH 対馬 一宏
 栗井 信行・染矢 凌佑
 発行 岐阜市
 広報広聴課 058-214-2710
 発行月 2022年12月



